

平成21年度北海道観光入込客数調査の概要

平成22年7月
北海道経済部
観光局

本調査は、全国観光統計基準により道が定めた「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、各市町村が行った観光入込客数調査や交通機関における輸送実績から推計したもので、半期毎に実施しています。

記

1 観光入込客数（実人数） 4,682万人（前年度比 99.5%）

平成21年度の観光入込客数の総数（実人数）は、4,682万人となり、前年度の4,707万人に対し、99.5%（25万人減）となりました。

「ねんりんピック北海道・札幌2009」の開催や9月の大型連休「シルバーウィーク」、ガソリン価格の安定化や昨年3月から始まった高速道路料金の割引制度によるドライブ観光の促進などの増加要因はあったものの、新型インフルエンザの流行による旅行減と相次ぐイベントの中止、引き続き景気の低迷、航空機の減便や機材の小型化、高速フェリーの廃止、さらには夏季の天候不順による屋外観光施設への入込客や海水浴客の減少などが影響し、観光入込客数は、現行の統計基準を採用した平成9年度以降の最低となりました。

なお、道内客が前年を上回ったことに加え、冬季には中国などの訪日外国人来道者が大幅に増加するなど、明るい兆しが見られます。

<観光入込客数（実人数）>

区分	観光入込客数 (実人数)	前年度比	
			増減数
道外客	597万人	95.1%	31万人
うち外国人	68万人	98.0%	1万人
道内客	4,085万人	100.1%	+6万人
合計	4,682万人	99.5%	25万人

圏域別延べ人数

区分	観光入込客数 (延べ人数)	構成比	前年度比	
				増減数
道央	7,370万人	56.3%	99.4%	47万人
道北	2,219万人	16.9%	98.4%	36万人
道南	1,035万人	7.9%	95.4%	50万人
十勝	900万人	6.9%	102.9%	+25万人
オホーツク	810万人	6.2%	96.3%	31万人
釧路・根室	766万人	5.8%	94.1%	48万人
合計	13,099万人	100.0%	98.6%	186万人

四捨五入のため数値が合致しない場合があります。

2 訪日外国人来道者数（実人数）67万5,350人（前年度比98.0%）

平成21年度の訪日外国人来道者数は、実人数で67万5,350人となり、前年度の68万9,150人に対し、98.0%とやや減少しました。

上半期は、新型インフルエンザの流行や世界的な不況や円高などの悪条件が重なり、大幅な減少となりましたが、下半期は各国・地域の景気回復により訪日旅行需要が回復し、大幅に増加しました。

台湾	5月以降の新型インフルエンザの流行や対円での台湾ドル安などによって日台間の往来者が減少したことに加え、8月に台湾を直撃した大型台風が過去50年で最大級の被害をもたらし、自粛ムードから旅行需要が冷え込んだこともあり、年度前半は前年比で約4割減少しました。その後、景気が回復しつつあり、外国旅行需要にもプラスに作用したことから、冬季には約2割増となったものの、通年では大幅に減少しました。
韓国	年度当初は、景気の低迷と物価の上昇、対円でのウォン安、新型インフルエンザの流行とマイナス要因が重なり、前年比でほぼ半減であったが、夏場の需要期からマイナス要因が改善し、春以降やや揺り戻し、その後安定したウォン相場への心理的な慣れも見られ、秋季では微減にまで回復しました。 さらに冬季には、一部道内との直行便の再開などのプラス要因のほか、前年の落ち込みの反動もあって、ほぼ倍増となり、通年ではほぼ前年度並みに回復しました。
香港	平成20年秋には新たなエアラインの新千歳就航があったほか、レンタカー利用など個人客の旺盛な旅行ニーズに支えられ、世界的に景気低迷の中にあっても、春から秋にかけての来道者数は比較的小幅の減少に止まりました。その後、国内の景気が回復しつつあり、外国旅行需要にもプラスに作用したことなどから、冬季には前年比約3割増となり、通年では前年度とほぼ同程度となりました。
中国	国内景気的好調維持を背景に、世界的に旅行需要が低迷する中、主要市場で唯一の拡大市場。本道の自然や温泉などが人気であるほか、道東を舞台とした中国映画の大ヒットを背景とした北海道ブームも継続しており、また、7月に一部富裕層に訪日個人観光ビザが解禁されて以来、個人の旅行形態による訪日旅行需要が創出されるなど、通年では倍増となりました。
シンガポール	5月以降の新型インフルエンザの影響や、国内経済の低迷と先行き不透明感から外国旅行需要が減少したことなどから訪日旅行が極端に落ち込み、年度前半は前年比で4割以上減少しました。その後、国内景気が回復に向かい外国旅行の負担感が和らぎつつあることなどから、冬季には前年比約2割増となったものの、通年では約1割減となりました。
オーストラリア	世界的な不況や対円の豪ドル安の影響で、遠距離の外国旅行が手控えられ、春から秋にかけては対前年比1～2割減少しましたが、前年、景気低迷の影響で落ち込んだ訪日スキー旅行需要が、年度後半の景気回復、豪ドル高などにより回復し、全体の9割以上を占める冬季の来道者数が増加したことから、通年では約1割の増加となりました。

< 訪日外国人来道者数（実人数） >

国・地域別	来道者数（実人数）	前年度比		構成比
			増減数	
台湾	180,850人	79.5%	46,750人	26.8%
韓国	135,300人	97.3%	3,800人	20.0%
香港	127,550人	101.2%	1,550人	18.9%
中国	92,700人	195.6%	45,300人	13.7%
シンガポール	40,450人	89.3%	4,850人	6.0%
マレーシア	8,400人	81.6%	1,900人	1.2%
タイ	6,300人	165.8%	2,500人	0.9%
上記以外のアジア地域	10,550人	119.9%	1,750人	1.6%
アメリカ	12,700人	88.5%	1,650人	1.9%
ロシア	5,050人	73.2%	1,850人	0.7%
オーストラリア	32,100人	109.0%	2,650人	4.8%
その他（不明を含む）	23,400人	77.6%	6,750人	3.5%
合計	675,350人	98.0%	13,800人	100.0%

（注） 実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

延べ人数：市町村の実人数の単純合計で、1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。